

〈状況報告〉

本校は肢体不自由特別支援学校である。医療的なケアが必要な児童・生徒から、教科書を使って学習する児童・生徒等、多様な障害のある子供達が在籍している。

〈児童の実態〉

小学部三年生の準ずる教育課程に在籍する児童の事例である。学習に遅れがあり、注意の持続、数概念や漢字の理解等に難しさがある。ワーキングメモリーに課題があるため、学習していることを途中で忘れ、それによって注意がそれることが頻繁に起こるようである。それにより学習の継続時間は数秒～5分以内であり、iPad 導入前には教員の声かけが常に必要であった。

パソコン等の ICT 機器に以前から興味を示しており、学習に意欲的になることから、今回 iPad を国語と算数の授業で導入した。

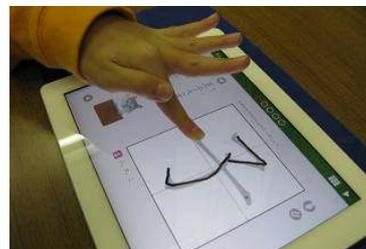
脳性マヒにより右半身にマヒがあるが、左半身は自由に動かすことができ、一人で座位にて iPad を操作することができる。iPad が机上で動かないように、滑り止めシートを利用した。

〈取り組みの様子・写真〉

国語ではアプリ「小学1年生かん字ドリル」を使った。

本アプリは、漢字学習において始点と終点があり、その二つを通らないとクリアできないようになっている。一つ一つの漢字をクリアするには、注意を持続しながら終点まで書くことが要求されるため、本児に適切であると考えられた。また、注意を持続しながら何度も漢字を練習できるのも強みであると考えられる。視覚的にも見やすく、やることが単純明快なので本児には効果的であった。

本アプリを使うことで、今のところ10～15分間継続して学習できるようになり、読める漢字が少しずつ増えてきた。



算数ではアプリ「しゃぼんだまいくつ？」を使った。

しゃぼん玉を一つずつタップしてこわしながら、100まで数えることができるアプリである。他の数唱アプリは10までのものや、海外版（英語の数唱）のものが多く、100まで数えるねらいがある本児の実態に合わないことから、本アプリが最適であると考えた。本アプリは iPhone 用であり、画面を拡大して使用した。

本児の日頃の学習の継続時間は上記の通りだが、国語の取り組みと同じように、iPad を使うことで、今のところ一人で10～15分間継続して学習できるようになった。その間一度も注意がそれることはなかった。

今回の取り組みにより、100までの数唱や数の大小関係が分かるようになった。

